# 糖

病



水

# 京都武田病院

糖尿病センター長 小川 栄 氏

飲み薬や注射薬は近年

血管障害などの影響が出ま ドウ糖)が体に取り込まれず、 きを促す栄養、特に糖質(プ 採血し、血糖値を測る検査で

のことです。インスリンの分

による、慢性的な高血糖状態

泌が悪くなると、体や脳の働

られるインスリンの作用不足

A 糖尿病とは、膵臓で作

Q

種類と原因は。

値に分けられます。随時血糖 値は食事の時間を気にせずに

ることもお勧めします。

進歩

Q 治療について。 A 治療は食事と運動が基

も積極的に行われています。

やウイルス感染などによりイ あります。 す。糖尿病には自己免疫異常 肪食、運動不足や喫煙などの 必の作用不足が起こる2型が ンスリンが分泌されなくなる 環境因子によりインスリン分 ・型、遺伝因子や肥満、高脂 Q検査方法は。

は、随時血糖値と空腹時血糖 A 検査としての血糖値 経口ブドウ糖負荷試験を受け 場合も糖尿病と診断されま す。随時血糖値が200mg 分泌状況も確認できる、75% が1つ6mg/dl以上ある 空腹状態で採血し、血糖値を と診断されます。空腹時血糖 測る検査です。空腹時血糖値 値は検査当日の朝食を抜いた す。膵臓からのインスリンの dー以上ある場合は糖尿病

た。従来は、飲み薬の効果が弱 法を行います。薬物には飲み 飲み薬と注射薬も出てきまし が期待されています。また、イ せるSGLT2阻害薬は効果 います。中でも、血液中の過剰 薬と注射薬があります。近年、 本で、不十分な場合に薬物療 リン分泌細胞を保護する方法 を良好に保ち、膵臓のインス は早期から使用して、血糖値 い場合にインスリン注射薬を ンクレチン関連薬で週1回の な糖を尿中に積極的に排出さ 糖尿病の薬剤は進歩してきて 関用していましたが、現在で

### Q 種類と原因は。

A 糖尿病とは、膵臓で作られるインスリンの作用不足による、慢性的な高血糖状態のことです。インスリンの分泌が悪くなると、体や脳の働きを促す栄養、特に糖質(ブドウ糖)が体に取り込まれず、血管障害などの影響が出ます。糖尿病には自己免疫異常やウィルス感染などによりインスリンが分泌されなくなる1型、遺伝因子や肥満、高脂肪食、運動不足や喫煙などの環境因子によりインスリン分泌の作用不足が起こる2型があります。

### Q 検査方法は。

A 検査としての血糖値は、随時血糖値と空腹時血糖値に分けられます。随時血糖値は食事の時間を気にせずに採血し、血糖値を測る検査です。随時血糖値が200mg/d1以上ある場合は糖尿病と診断されます。空腹時血糖値は検査当日の朝食を抜いた空腹状態で採血し、血糖値を測る検査です。空腹時血糖値が126mg/d1以上ある場合も糖尿病と診断されます。膵臓からのインスリンの分泌状況も確認できる、75グラム経口ブドウ糖負荷試験を受けることもお勧めします。

## Q 治療について。

A 治療は食事と運動が基本で、不十分な場合に薬物療法を行います。薬物には飲み薬と注射薬があります。近年、糖尿病の薬剤は進歩してきています。中でも、血液中の過剰な糖を尿中に積極的に排出させるSGLT2阻害薬は効果が期待されています。また、インクレチン関連薬で週1回の飲み薬と注射薬も出てきました。従来は、飲み薬の効果が弱い場合にインスリン注射薬を使用していましたが、現在では早期から使用して、血糖値を良好に保ち、膵臓のインスリン分泌細胞を保護する方法も積極的に行われています。

2016年2月25日京都新聞より抜粋